

平成25年度 燕・西蒲 生活科部 活動報告

部長 大津 正行

1 研究主題 「子どもの思いを大切にした生活科授業の工夫」

2 研究の概要

(1) 第1回部会 6月5日(水) 実習研修

「生活科に生かせる調理実習」

講師 沖田 伸子 栄養士(燕市立吉田小学校)

①研修内容

白玉粉と米粉に豆腐を混ぜた白玉生地を作り、1/3に抹茶、1/3にサツマイモを加え白玉団子を作った。

普通の白玉、抹茶の緑玉、サツマイモの黄玉の三色の白玉団子を作り、きな粉をかけたら完成。

②成果

多くの学校で栽培するとサツマイモを使って、三色白玉団子を簡単に作る事ができた。白玉団子をこねて作り、ゆでるだけなので、子どもたちにも簡単に作らせることができる。サツマイモを使った新しいメニューを手に入れる事ができた。



(2) 第2回部会 期日:12月4日(水) 授業研究

「つくってあそぼう～おもちゃ大会をしよう～」

授業者 野口 睦子 教諭(燕市立小池小学校)

指導者 佐藤 春男校長(加茂市立加茂小学校)

①授業の概要

1年生を招待する「おもちゃ大会」をめざして、動くおもちゃ作りをする単元である。自分の作ったおもちゃを試す活動を通して、よりレベルアップしたおもちゃを作る活動が本時であった。

ロケット、ほかけ車のグループ毎に分かれて、交流しながら意欲的に自分のおもちゃを手直しする姿が見られた授業であった。

②成果

*協議

<作りたいおもちゃでグループを構成し、交流させることは子どもの気付きの質を高めるのに有効であったか><「今日してみたいこと」を具体的に書かせることは、自分のおもちゃのどこを、どのように手直しするか見通しを持たせることに有効であったか>の2点について話し合いを行った。

*指導

生活科で大切にすることの「気付き」について下記3点のご指摘。

「気付き」とは、

①主体的な活動の中から実感を伴って生まれる子どもの認識の芽。

②知的な側面とともに、感動や驚きなど情意的な側面も含まれる。

③次の活動を誘発し、そこで生かされるような質をもつ。

さらに、生活科の活動における教材性の検討について次のご指導をいただいた。

①身近であるか・興味関心を喚起できるか。

②繰り返し対象にかかわり、情報を収集できるか。

③活動の中で、より高い課題が生まれることが期待できるか。



3 成果と課題

実技研修と授業研究の2回の研修会を継続してきた。実技研修ではここ3年間は調理実習を行い、育ててきた野菜を収穫感謝祭へとつなげることができた。実習を授業に上手く活用することができた。

また、授業研究についても力量のある講師先生を継続して迎えることができ、研修を日々の授業改善に向け取り組むことができたことが成果である。

今後は、活動を充実させる生活科の言語活動に視点をあてた研修にも取り組んでいきたい。さらに、幼保小連携のカリキュラム開発にも手を伸ばせたらと考えている。